

Aomori Wood Showroom Renewal

変化する時代に合わせて、 住まいの「選び方」を提案する

2025 ショールームリニューアル
株式会社 今井産業

文=小田切 孝太郎 写真=今井 聡
text:Kotaro Odagiri photo:Satoshi Imai



Showroom Renewal

分野別に比較できる、 体感型ショールームへ刷新

建材やサッシをはじめとする住宅資材の販売を軸に、設計や外構まで住まいに関わる幅広い事業を展開している株式会社今井産業。平川市に構えるショールーム「虹色の杜」は、住宅設備メーカー約30社（要確認）の商品を常設展示し、トイレやキッチン、サッシなどをメーカー横断で分野別に比較できる点が大きな特徴です。個別のメーカー展示場を回らなくても、ひとつの場所で見比べられるこのスタイルは、消費者目線に立った展示として支持を集めてきました。

2025年9月、同社はこのショールームをリニューアル。玄関は玄関、リビングはリビングと、実際の住まいをイメージしやすい空間構成に再編し、リフォームを検討する人にとって格段に見やすい展示へと生まれ変わりました。リビング空間は、見る角度によって和モダンにも洋風にも感じられるよう工夫され、ひとつの空間で複数のスタイルを比較できる構成になっています。



今回のリニューアルでは、空間づくりの一部に青森県産材も取り入れています。手すりや柱などの部材にはヒバを、壁材にはスギを使用し、それぞれの木が持つ色合いや風合いの違いを実際の建物の中で感じられるよう工夫されています。中でも注目なのはバルコニー部分。手すり壁を中心に県産のスギ材がふんだんに使われており、やわらかな木の質感とほのかな香りに包まれながら、住宅設備の展示を見て回ることができます。展示スペースは1階部分だけで約100坪。予約制となっており、落ち着いた環境でじっくりと住まいの相談ができる展示場となっています。

このリニューアルは、資材高騰の影響で新築市場が厳しさを増す中、リフォーム需要に応える拠点をつくりたいという思いが込められています。



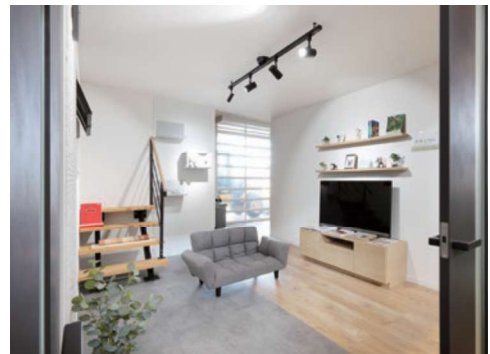
NIJIRO no MORI

新築が難しい時代だからこそ、相談の入口を広げる

近年、住宅価格の高騰により「家を建てたい」という思いがあっても、一歩を踏み出せない人は少なくありません。展示場に足を運ぶ人も、本当に建てたい、あるいは直したいと考えている層に限られる時代になっています。そうした背景を受け、今井産業では2025年から新たに「うちの相談所」を開設しました。

同社は住宅専門のファイナンシャルプランナーと契約し、資金計画やライフプランを含めた家づくり全般の相談を受けられる体制を整えています。かつては間取りや見積もりが家づくりの出発点でしたが、今はまず「いくら使えるのか」を明確にすることが不可欠な時代。将来的には法律面の相談にも対応できるよう、専門家との連携を広げていく予定です。

今井産業は工務店ではないため、請負工事は行っていません。しかし、要望に応じて地元工務店を紹介することは可能です。大手メーカーだけでなく、地元工務店にも目を向けてもらうための橋渡しの役割も担っています。





暮らし全体を支える、 地域のパートナーとして

展示場では住宅設備の比較だけでなく、蓄電池やEV車から住宅へ電力を供給するVH2システムなど、今後普及が見込まれる設備も紹介しています。新築だけでなく、将来的な住まいのあり方を考えるきっかけを提供している点も特徴です。

また、外構工事の相談やパースによる提案、段階的な施工計画など、住まいを建てて終わりにしないサポート体制も整備。住宅を取り巻く環境が大きく変わる中で、同社は一社ですべてを抱え込むのではなく、専門家や地域の工務店と連携しながら、住まいに関する悩みを受け止める拠点を目指しています。

「家の性能は、もはや最低条件。その上で、どんな価値を提供できるかが問われている」と語る今井公人代表。比較し、相談し、納得して選ぶ。そのプロセスを支える存在として、地域に欠かせない家づくりのパートナーです。



CORPORATE DATA | 会社情報

株式会社 今井産業

青森県平川市新館藤山16-1

Tel:0172-44-2145 Fax:0172-44-2568

hp-info@imaisangyou.co.jp

<https://www.imaisangyou.com/>



Aomori Wood Fan Event

県産品をぎっかけに 交流が生まれるイベント 「縁むす日」

有限会社 キーポイントホーム／企業組合 県木住

文・写真=苦米地 結子

text/photo:Yuiko Tomabechi



清々しい初夏の空気に包まれた2025年6月1日。今年も青森市浪岡交流センター「あびねす」の多目的広場にて「縁むす日」が開催されました。会場には県内の飲食店やクラフト作家を中心とした16店舗と6台のキッチンカーが集い、どのブースも終始活気に満ちていました。

「縁むす日」は「県産品をぎっかけに、県産材に興味のある人たち同士が繋がるぎっかけを」という趣旨のもと、県産材の魅力伝える活動をしている「チーム県産材（企業組合 県木住、有限会社キーポイントホーム）」が主催しているイベントで、今年で4回目の開催となります。もともとは取引先やユーザーに向けた感謝祭として始まったイベントでしたが、昨年からはより多くの人を楽しんでもらえるよう、一般の方も気軽に立ち寄りやすいオープンなイベントとして生まれ変わりました。



来場特典でもらえる
わなげ引換券と金券。



金券と交換して焼きたての
貝付きホタテを無料でゲット。



林業アカデミーの紹介コーナーには
木でできたフクロウと
チェーンソーのオブジェが。



県産豚を長期熟成した
生ハムの試食も。

老若男女が楽しめる アットホームな空間

受付ブースを訪ねてみると、会場で使える金券を必ず
ゲットできる抽選会が行われており、カランカランとい
う鐘の音とともに、絶えず喜びの聲が上がっていました。
さらには、県産のお米や野菜などの豪華景品が当たる輪
投げコーナーや、子ども向けのお菓子すくいコーナーな
ども。来場するだけで気軽に楽しめるコンテンツが充実
しており、どのブースでも世代を問わず自然な交流が生
まれていたのが印象的でした。

クラフト作家さんの出店ブースでは、津軽塗りの研ぎ
出し体験や杉の木でつくる貯金箱作りなど、作家の個性
が光るさまざまなワークショップが行われていました。
フードブースでは、たこ焼きやベビーカステラなど定番
の屋台メニューのほか、牛サガリを挟んだベーグル、貝
付きの焼きホタテなど、イベントでしか味わえない特別
メニューも。ランチタイムにはどのお店も行列ができ、
会場を何周もして悩む人の姿が絶えませんでした。

今年特に注目を集めていたのが、ペットに特化したブ
ースです。県産材で作った屋外用ドッグランの展示や、
無添加で安心な手作り犬用おやつの販売など、ペットと
の暮らしに関心のある方に向けたブースが充実していま
した。愛犬を連れてお店をまわる人の姿も多く、愛犬家
同士の交流も生まれていました。

TEAM KENSANZAI

EN-MUSUBI

TEAM KENSANZAI

EN-MUSUBI
2025.6.1

IN APINESS NAMIOKA

人と人が ご縁で結ばれる日

このイベントの魅力は、初めての人もそうでない人も、誰もがフラットに交流できるところにあります。イベント名にもなっている「縁むす日」は、“人と人がご縁で結ばれる日”という意味が込められており、どのブースを訪れてもまさにその名の通りの光景が広がっていました。

「実は今回の出店者も募集で集めたのではなく、すべてご縁でつながった方たちなんですよ」と話してくれたのは、主催者の一人であるキーポイントホームの阿保勝之さん。もう一人の主催者である県木住の佐藤時彦さんとともに、イベント中も各ブースをまわりながら来場者や出店者と気さくに会話を交わしている姿がとても印象的でした。

「縁むす日」は、人と人が自然につながり、新しい出会いや発見が生まれていく場。さまざまな分野の県産品を楽しんでもらうことで、青森の魅力やそれに携わる人の魅力にふれ、新しい出会いや発見が生まれていく、そんな温もりのあるイベントです。これからもこうした「ご縁」が広がっていくことを願いながら、次回の開催にも期待が高まります。

NEXT... EN-MUSUBI

縁むす日 2026
10月4日(日)開催(予定)

【会場】青森市浪岡交流センター「あびねす」多目的広場



1. 木の枝とどんぐりを使った小物作りに家族で挑戦。2. 今年は快晴で気温が高かったため、冷たいスイーツが人気だった。3. 県産材を使用した積み木で遊べる木育体験コーナー。4. フィンランドの装飾品「ヒンメリ」を作るワークショップは女性に大人気。5. 虫好きの少年にはたまらない珍しい昆虫の販売も。6. 今年も人気者の県産品PRキャラクター「決め手くん」。



EXHIBITION MEMBERS

【出店メンバー】

- 青森県林政課
- おおわに自然村生ハム工房
- 蝦名木工所
- ほたて漁師おうさか
- (株)今井産業
- くべる部
- さとのはな
- 岩木山麓ちいちゃん農園
- ナカナカストア
- 杉豊商店
- Snow hand mad
- the initial impulse
- dog café 木-point
- 浅虫コリドー
- mesomeso
- アトリエ灯の木
- pommier
- Aiha
- マヨたご弘前店
- muskaan
- SWEETS CAFE CORORON
- musubi.
- FREE
- 移動食堂 味里

ORGANISER & SUPPORT

【企画運営】



主催：チーム県産材
(有限会社 キーポイントホーム・
企業組合 県木住)

後援：青森県森林組合連合会

協力：青森県林政課
青森県木材協同組合

7. 青森ヒバのチップ入りの犬用クッション。8. 豪華景品が当たる輪投げコーナーは老若男女誰しもが夢中に。9. 津軽塗りの皿と県産材を使用してできた時計の販売も。10. 肉厚で食べ応えのある青森さくらげの試食ブース。11. お昼時はどのキッチンカーも行列ができるほどの盛況ぶり。12. 野辺地で採れた完熟トマトがイベント限定で破格の値段に。13. 来場者特典のお菓子すくいに挑む子どもの姿が絶えない。14. ちいちゃん農園のりんごジュースやりんごチップスは愛犬用にも。15. ワンちゃんも県産材でできたドッグランに興味津々。

県産木材を活用した青森ねぶた出陣す！

～イメージアップ、そして地域経済の活性化を期待して～

文=佐藤 史隆 写真・資料=合同会社もの芽舎
text:Fumitaka Sato photo & data: Mononomesha

青森県が世界に誇る青森ねぶた祭。

その大型ねぶたに青森県産木材を活用しようと、令和7年4月に青森市、青森ねぶた製作者一同、青森ねぶた運行団体協議会、青森県木材協同組合による協定が結ばれました。

そしてさっそく、同年の祭りにおいて、県産木材を取り入れた大型ねぶたが運行されました。



毎年およそ100万人の観光客が訪れる青森ねぶた祭。大型ねぶたは23台出陣し、お囃子や跳人とともに青森の夏を華やかに盛り上げます。ふるさとのお宝といえるこの祭りにおいて、行政、ねぶた関係者、木材関係者の連携により、令和7年度から青森県産木材が使用されることになり、県産木材活用の輪が、祭りという分野にも広がりをみせています。



ねぶたの骨組み。木材は重量を支える重要な役割を担っている。



令和7年度青森ねぶた大賞・青森菱友会「海王」(竹浪比呂央作)。
県産木材が、ねぶたの骨組みの一部となって、祭りに一役買っている。



使用した木材を指し示す竹浪比呂央さん。「青森県のために」と引き受けた。

県産木材が使用されているのは、大型ねぶたの内部。針金でこしらえた骨組みが崩れないように支える役目を担っています。これまで、骨組みに使用する木材の多くは、マツなどの輸入木材でしたが、協定を受けて、県産の杉材が取り入れられるようになりました。今年初めての試みでもあり、採用の判断は各ねぶた制作者に委ねられましたが、出陣する多くのねぶたで使用されました。

第7代ねぶた名人の竹浪比呂央さんは、「大型ねぶたの材料として積極的に活用することで、県内外への青森県産木材のアピールにつながると思います。これからも利用していきたいです」と話していました。

表には見えないところで縁の下の力持ちとなって、華やかな祭りを支える県産木材。ねぶた、県産木材双方のイメージアップとなり、さらには林業の活性化、地域経済の活性化につながることが期待されます。

DATA 作品概要

作品名：大型ねぶた 海王(かいおう)
 運行年：2025年
 運行団体：青森菱友会
 制作者：竹浪比呂央
 受賞：ねぶた大賞/最優秀制作者賞

[県産材の使用状況]

構造材：スギ

竹浪比呂央ねぶた研究所

青森市安方2丁目2-8
 Tel/Fax:017-752-1616
<https://takenami-nebuken.com/>

